



□ 9
4453





09
4453

書禮口訣序

書礼いさし人を源ノミヤマト

朝廷テイより出づ其流ノカミ武家

小廣ヒロままより。ど代の法ノホウつ

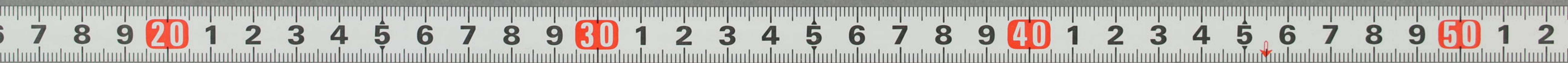
まひらふと。れとあり

せり書多しといへども

ともあつたむねど日用ニチ

贈ヲクと書コタへるる式シキよ

57 6030



ふふふのふふふ。今世ふ
廣^{ヒロ}まわら書礼のふふふ
のふとかうぐん^{クン}ふふ^フふ^フ
ふふふと^{ミヤ}切^キ釋^シれふふふ
ふふふ

元禄つらぬのう穀雨乃日

書禮口訣目錄

- 一 書法故實 ^{ミヤ} ^{ハク} ^コ ^{ニツ} 上卷二丁
- 二 貴賤書法 ^キ ^{セシ} 中卷二丁
- 三 墨迹 ^{スミ} ^ジ 中卷九丁
- 四 用字 ^{ヨウ} ^ジ 中卷十三丁
- 五 書式圖 ^{シキ} ^{シツ} 中卷廿二丁
- 六 名称 ^{メイ} ^{シヨウ} 中卷廿六丁
- 七 名数 ^{メイ} ^{スウ} 中卷卅二丁

八 神祇 下卷二丁

九 官位 下卷四丁

十 疾病死喪 下卷七丁

十一 僧家 下卷九丁

十二 工巧 下卷十一丁

凡十二條

書禮口決上

一 書法故實



公家書札名 後宇多院

弘安年中被制定至于今

以其法乃明流也武家書札

名 後小松院應永年中

鹿苑院義滿公命于今河

小松五郎保衡之三家被撰武

家札法及書札法普施行於

武家其法 後花園院承享

年中善廣院義教公撰於

寺又令右二家被撰書札之
 法。亦未上下道行之。其後
 世為我國都鄙紛亂。人多
 罹此。大抵此時書札。書多
 減。已矣。近世一統之始。天下
 泰平。而書札之法。復於世
 一夫書札。法或古。代。有。二
 色。有。三。又。有。一。内。封。簿。上
 腰。文。有。第。一。内。封。と。云。文。の
 柄。と。切。り。絶。え。し。と。と。包。て
 上。書。と。云。と。と。云。を。せ。れ。ば
 紙。よ。ま。と。と。と。と。糊。て
 封。し。し。の。状。の。右。れ。内。封。の。略
 義。也。謹。上。書。の。よ。近。世。乃
 堅。文。と。と。状。の。右。と。檢
 了。又。の。緒。と。封。し。て。上。書。し
 し。の。状。の。右。れ。簿。と。ま。の。略。也。
 腰。文。の。と。包。せ。し。と。と。紙
 せ。り。し。と。と。綴。し。し。と。す。る
 也。腰。文。と。云。今。れ。紙。は。他
 たり。今。の。紙。と。と。と。と。紙
 不。包。綴。し。し。と。と。と。と。紙

よく封しつるは古の綴りの
略也。右の二色中一と肩
書脇封等位差等習いの
あり。内封は限る也。次よの
綴り也。謹と書は古より綴
付のゆかりあり。のりよく
かたり。雖然とせは内封の肩
書脇封と取く。何きりか
し認む

一謹と書之時は礼紙とくま
く。常よ不封して白紙

一枚よくとよとよと。其は
と堂文にとりたり。と
礼紙ふみ紙三紙友紙の礼紙と
まのあり。友紙礼紙とハ
文礼紙とも云む。取く取く
へ。ふ紙乃礼紙と用かりなり。
み紙とハ本紙二枚礼紙一枚上
包二枚以上ふ紙也。同書ふの
ト書へは三紙と礼紙と用かり。
三紙とハ本紙一枚礼紙一枚上
包一枚以上三枚以上三紙と書

三

一 紙官より唐紙とすべしと

云れ也。人の名を唐紙の書

敬なり

一 連判のふ方也。書きの紙は也

一 紙のよりより筆初より

口れ紙三寸六分。月日同

三寸六分。月日と書一紙の

三寸六分。是と三本三六れか

ねと云。是敬より酒極也。月

日と書一紙の三寸八分

書は白紙を対の紙

へしと。むと敬字へは

書は白紙を対の紙

奉書大紙。亦三寸紙と

下紙。大紙。等筆より三寸

許で紙。三寸より一寸の

貴紙より紙と紙あり。凡

何より三行紙とす

一 主人貴人より三行節供紙

供紙。亦紙と色紙とす。次

不敬なり

不敬なり

よき。此に在るは、向の字と云
事不滞也

一 女房へ送る文の紙一かきわ
くまへ。立紙れ可し二枚也

一枚の修儀なり

一 判形ハツガタののり。大なるのニ色紙也

小く是スミぐらりよびくすゆり

の紙へる。すゆりよ上申され

次第あり。名案のたへし也

ととらへニ意致也。其申シ意

書。右へよす。下カ也

一 名書ナナカと云。向カウの名字深也。

官ぐらり手と。我カもぞもな

よぞまの。敬キョウ後也。向カウの

字友と書。我カ友ぐらり也

の向カウ人ニとカへる也。又向カウの

我カの。名ナ友トと云。と云の

向カウまれの。いしひなり。向

と云。向カウの。名ナ友トと云。と云の

と云。向カウの。名ナ友トと云。と云の

他カへカをカよカの。我カと向カウと云

字ナ友トと云。と云。と云の

ちとれ恐有へくす

一宛^{エテトヨ}と我名と。恐懼と作

字よまのき^シ敬也又安

業とづつりよと修^{コウ}見ゆか

極よか、もの也

一^モ文^ジよれうほり^シなり^シて

とて^シよ^シと^シ或^シ下^シ世^シれ

名とあくと^シトよま^シ人

の名かくゆ^シド^シと^シ視^シ乃

つと^シ同^シか

一^キ快^ラよ切^シと^シと^シと^シ極^シ入^シ也。

ほくま^シつろ^シふ^シと^シ切^シと^シ

へあげ^シと書^シり也。と^シは^シは^シ

多^シと。再^シも^シ奉^シ令^シれ^シ新^シなり

第一^シの^シ字^シ官^シの^シと^シ下

とよ^シと^シけ^シと^シの^シ甚^シ也^シ

一人^シれ^シ名^シ候^シと^シま^シの^シま^シり

よ思^シひ。又^シに^シ付^シと^シと^シの^シ分^シ

お^シと^シり^シの^シ候^シ行^シる^シの^シ候^シ

よふ^シと^シり^シふ^シと^シ合^シと^シ也^シ

是^シの^シ候^シの^シ候^シの^シ候^シ

と^シの^シ候^シ

一。正月十日に及ばず。逐日書
御事。舊人共可なり。也
一書林。たの折紙。目録。等と云
紙。こも。身。は。相。魚。の。野。ふ
下。書。也。そ。う。う。な。る。紙。え
ま。人。へ。情。を。う。め。ま。れ。な。る。
若。り。折。紙。と。な。ら。よ。さ。の。り。
参。議。以。上。な。る。人。一。大。さ。の。ハ
ど。ん。の。の。也。又。付。合。も
と。か。よ。こ。く。く。よ。さ。紙。か。ど
つ。く。く。の。又。か。よ。り。あ。ま。い
男。ハ。ま。れ。也

一。目録。と。い。條。目。ご。く。り。と。云。と
次。牙。一。番。よ。極。を。也。二。番
名。三。番。魚。也。次。一。行。各。一
行。よ。ま。る。一
一。目。録。と。い。条。目。ご。く。り。と。云。と
目。録。は。文。は。お。は。目。録。は。文
と。い。ふ。下。書。お。は。い。よ。り。く
を。と。と。い。ま。る。一。或。目。録。の
は。文。と。い。ふ。し。も。目。録
は。文。と。い。ふ。一。と。云。可。い。下

よ教と云ふこと。下よ教と
云ふこと。一はよ下なる次。○真
教の云は。一ツ二ツなり。際
字と云ふこと。唯一二寸
書也

一は言書と云ふ。是よ一は言
と云ふこと。言はよ一は言と
云ふこと。唯言と云ふこと。
言と云ふ。言文よ言文なり。
目録よ目録なり。割れり
割れり。言はよ言はり
と云ふ。言はよ言はり也

一云方れ所成取と割れと云ふ又
其國のち後教はよわらふ必教
よらふこと。言はよ言はり
かゝるなり。又割れと云はる
同くこと。

足利家の三職武衛細川畠山
武衛の言はる。言はる。新治の言。四職
代り。兵部省の言はる。山名。一色。赤松。赤松
女中方面の言はる。言はる
くこと。言はる。言はる。言はる

上の字と假名よ書。トとよ
字ふと成こととよ下と假名

よまへー

一 隅の丘へけねいさふり来
る後には我々のかこもたの
あゝ後にはとりのた。又奉と
ふ字ありたす也。傍字か
らば。肩よー。此丘下掛あ
まりふもこのまれ也

一 一と封とらる。まを二
と丘と也。封とまをともふ

まをの所也。おちど包と封と

よの二つ川べー。二つ川で丘と
のいさげらる。こらなり

一 日記に書後のも。前よ其ま
細とまを。はくよふとす也

三月十日

一 節名

二 節名

三 節名

あつよはくさる也。又右の
まをけふま後。はくよふとす

細ともま也。それなくは身也。
取也。又取身じつう。きよは細く
くわい。各乃名書く。くわいおみ。
取身不固くま也。きよこつに
か。り。せ。し。と。書。け。ん。

一書。う。つ。り。と。ま。し。め。し。し。の。書。
取の人。た。み。と。ま。ん。い。い。し。し。
く。り。の。四。よ。あ。ひ。よ。あ。ひ。の。す。
ま。ど。ま。し。る。は。き。よ。ま。ん。人。れ。み。
と。ま。い。取。し。何。も。書。取。の。み。
を。ま。し。め。し。と。こ。く。ま。し。

一書。林の奥とわりの。二寸二合。
又ひねり。又二寸八分。よ。ま。わ。り。
奥。う。く。わ。り。の。す。る。は。取。し。し。
書。が。ど。度。く。わ。り。又。奥。と。に。
ら。ど。と。ま。し。る。は。き。よ。ま。ん。人。れ。み。
強。い。ま。る。の。文。と。二。分。一。合。
又。二。寸。と。二。寸。よ。り。く。ま。し。る。
一。取。し。の。取。付。 四。寸。 四。寸。

一主。人。及。き。貴。の。人。へ。取。ま。し。の。
お。く。ふ。月。日。乃。天。今。ん。す。し。書。

やうふうふさぐー。女の文作
不すま書又花ぢよは似る文
言ひくづらさす

一編内筆付けらるる

板山内通助友

々々々

武曲のまればやうらうらとせ。
紙アツリくうらぶの下より

まへー

年号まねの。墨紙の河

筆ぢやうりつまふく。

一六。文福二も八月日とく

小まへし。折紙ハ肩こも号

とがへし。まゆし回前

一くふ点つけやうらふ

宮造り甚と衆。是ハ多也

石田治勢が物。海かぎる

首乃預之河也

一紙帖くづ。古衆

来十又日沙危あし花巻

各下ふ来くろふ折紙

三月十日

一版 奉

二版 奉

三版 面高き

四版 奉

又版 云々

奉の石小云。云イニの方より色

一ズなるモシ文書も在判サシと云ふ

初多し。云紙乃ニ判

ありと云ふ也。世立セツの字シ

かり。有ニのみよりべし

一連判シの時。同ニは同ニと云ニ思シ

あり。好ニと又ニちべし

一紙シのしり。と云ふニはニと云ニと云ニ

ちべし。下ニせよニのニはニし

怒ニ得ニ違ニえし。と云ふニはニと云ニ

改ニへし。たニせよニのニはニと云ニ

らす

一イテあニらニるニ日ニ付ニとニ同ニ位ニと云ニ

同ニまニとニ序ニのニと云ニはニと云ニ目

付ニよりニと云ニはニと云ニ向ニのニ判

名ニと云ニべし。一ニ流ニと云ニ日ニより

やニまニりニあニげニと云ニはニと云ニ人のニ名

とちぐ

一 玉くまへへい^キ姓をまてふ
ぐらう^キ下^キま^キま^キと^キあふ
の^キ姓^キの^キ口^キに^キま^キま^キん^キ一

必^キ中^キ一^キを^キの^キ口^キに^キま^キま^キん^キ一
る^キ中^キ老^キ一^キの^キ口^キに^キま^キま^キん^キ一
判^キ形^キの^キ上^キの^キ口^キに^キま^キま^キん^キ一
但^キ至^キて^キま^キま^キん^キ一

一 形^キお^キよ^キ我^キ以^キ尔^キ点^キを^キま^キま^キん^キ一
細^キく^キ短^キと^キ敬^キと^キ守^キ 上^キ何^キ某^キ

中^キ何^キ某^キ 下^キ何^キ一^キ 一^キま^キま^キん^キ一
又^キの^キ口^キに^キま^キま^キん^キ一

怖^キる^キ一^キま^キま^キん^キ一

一 文^キの^キ口^キに^キま^キま^キん^キ一

お^キれ^キの^キ口^キに^キま^キま^キん^キ一
れ^キの^キ口^キに^キま^キま^キん^キ一

わ^キと^キ一^キ其^キ用^キ一^キを^キま^キま^キん^キ一
丁^キの^キ口^キに^キま^キま^キん^キ一

お^キれ^キの^キ口^キに^キま^キま^キん^キ一
は^キげ^キと^キま^キま^キん^キ一
一^キま^キま^キん^キ一
て^キま^キま^キん^キ一

アミ人ヲ科人或致盜賊ニ
シテ人ナリ

一 忌憚穢をばぬ。二 刑よかて
まへうしむ。三 候よちべし。四
てより用ひし。忌憚と赤
ゆふ法をきと次行よなき
よらぬべし。一 況ふちきり
かひらぬとともなり

一 忌判之時月日乃下ハト字
也。又等もさべし。卑トト
一 のりせれゆ。我々とうし
不字書。ちと箱。入る。し
れふさけらえされり

一 却ト目のメメメ
よりとくま。候。短ハ致也
一 ひらされり。一 条ニ条よさ
もつ。一 候。一 条ニ条
時ナ條。そ。一 偶。とつ。ひ
一 其の教よちべし。是。傷。ふ。り
一 傷。れ。け。り。偶。と。つ。り。一 候。と
一 候。と。也

一 一 候。と。也

是正頭レカミカミかどをいふ弁ラセウス稱シ也

因茲ウラ本モクエふど下司ツカサかきま

強ガキ稱セシるものありも、カミ時トキの四ヨを

本モクエ先モク本モクエ賜モクらるゝ稱セシすのら。

改カミ稱セシし別カタし、カミ尉シの字ナこころの

原ハラを承ウケつ、カミ典ニを承ウケつゝカミづり

ひねりしれり、カミ先モク後モクよりカミ但シす

らうカミらうカミらうカミ。あまうりカミ也カミ

わいあし。ほふは後モクよわカミら

よりカミ二分フ程ホド也カミとカミ海ウミ邊ヘより

折オリらるカミ後モクのカミ折オリ也カミは折オリべしカミ

いねづ。稱セシくカミほカミはカミとカミ押シ

けらるカミ魚イサし。封フウとカミけらるカミ。

メカミあカミはカミるカミべし。うカミうカミうカミはカミあカミ

し。又カミしカミがカミ文フミはカミんカミあカミはカミあカミ

用ヨウ也カミ。さカミしカミしカミしカミしカミしカミはカミつカミく

押シゆカミらカミるカミ魚イサし。とカミれカミらカミるカミあ

がりカミらカミるカミはカミかカミ押シけカミらカミらカミうカミ

一カミ女メ中ナカへカミはカミたカミよカミはカミ月ツキ日ヒとカミあカミらカミ流リ。

判ハン紙シをカミ一カミしカミとカミ。代ダイ文モンとカミなり

わカミいカミるカミあカミらカミるカミはカミらカミらカミうカミ。或アル

去キ中ナカよカミ那ナ日ヒ今イマ日ヒあカミらカミるカミ文モン也カミ

去キ中ナカよカミ那ナ日ヒ今イマ日ヒあカミらカミるカミ文モン也カミ

とれより心来りて卒於婆乃
前より唯と率よりを
つゝとていふよりこのよへに
て供養れ人を石りして系
務せしむる事ふ卒於婆
と建けることと見ん乃卒於婆
と云ふと見ん人々と見ん
れ事也。是と云ふことと見ん
なり。ト業の心下よと見ん
ことと見んは目より上よりあり。
此は草よしと見んト業は草

林の婆の心よりト業の心本
地とより後トととてんなり。
手れ不届極よの事也
一奇と真字がらよちを極
ふことかづらふ事とてん
とつり
一事は書ハ奇より二事よとら
べしとてんこととてん次
乃れよとてんこととてん
御いん丸がかりとてん
あり。是よりとてん

かゞ一したまはし
一文字借用なる時ある初
町あるとて傳也と云ふ人
うらと云れと云ふつて紫
の宮町あり別は別、別は
かたがたかかよまづ一神の
文學はむかひ字よりきこえ
そまじと云ふはかかよまづ
奇一神の子よりまづ一
神の字幾層と必かかよま
とのかり

起清の起り。武内大臣兄
才湯と探れり。りそとま
まろ。又允恭天皇御代と傳
る者といふ人。味極五
く。名は望津探湯。火色五
掌。是等紙始とす。又紙
小菰言詞と云を昔文と云せ
罪中紙津のふ告然る故ふ
竹の也。大御初法し起清の
天皇傳送此法大御と知法
して書起清なる故。大御

起法の起法と云。慈惠傍心
虚久と云くちまう也。是
慈惠傍心より始まる起
法の字もい何ふ初ら又此
外文粹十二卷中書玉山亭
れ起法あり然る世々文よあ
らど。慈心より起る起法の
余物と云く。像と述法に
あり。又東鑑第六安樂寺別
當安樂傍心園東よ本り。永
久起法起法と云く。起る起
あり。是を慈心起る起法と云。

父子慈心慈乃抄心心く起
詞と云初心清感入る起
教心心金法心心起法と
今更心心起る起法と云。慈心
よせれども文云ハ心く起
又義経心対頼朝心心起心く
教心起法と述との起心。
其詞ハ心く起。東鑑第十三
卷心守範心対頼朝心心起心く
之由起法心心起る起法と云。前心心有心心

ら下と同一と云ふるべし
一 歌書も紙乃紙紙と云う
のよ。紙紙の中にしらすと云う
つねの書れ紙紙のこころ
おとすべし。東州史に
見ゆべし

紙屋紙紙といひし。西の紙
屋よりくすし紙紙と云ふ
紙屋もいふべし。紙屋川
と云ふ紙紙すけり川也

一 檀紙といひ合れり也。源氏よみ
られく紙と云ふ也。檀奥よ
り始りしけり也。埃糞物。有祝

一 将基れる玉。玉乃玉と云
ふ。兩玉いままんりすと云
ふ。一方と玉と云ふ。花の家
紙。紙。埃糞物。出たり。礼記
みし。天無二日土無二王と云
ふ。一。家。一。時。乃。昔。宿
紙。と。用。ひ。ぬ。み。ね。ず。と。色。紙
紙也。と。色。紙。の。内。に。紙。一
紙。か。く。と。色。紙。と。下。あ。る

笑う地と母とを故り

天子と云あぐまよの事

まの乃まよとさすいやく

人君とさすなふ平頼正

わくど平頼と平出頼正

乃二福と云い一傑乃古流の

徳海公に令義解第七を云

式令にせり。武家一用る

一の公方將軍。大樹中其行

る方の内又母さる平出ら

べし。よと云い世成世嗣の

内子あぐまの事さるるべし。

出家一と云い例におどる

あぐま

一福書。勅旨の同是編言の他

修められた事城編と云い物事

の小事と物と云い令義解七卷

一梅花和并及和文おんじり

れ花と梅花とかく同中よの

字とくさるるべし。唯梅花と

おんじり。よこの字とく

るくじり花としの事さるる

蜂初の通法と云ふ又云奇
 書ハ率よりかく唯ハ双紙ハ
 紙の衣片ハ初より本
 一短冊書ハ題の打とさ時下乃
 句一字下く丁書懸れは四六
 と下乃句同一身りよ丁書
 作者ハ名葉の下一字ハわく
 べし又一冊ハ書奇數多こと
 四ハ紙とちく奇ハと下れ句
 乃此同一身りよとべし
 三時ハたれどく下れ句一字さ
 げく何首とまべし 程有説

書札口訣上

書禮口訣中

二 貴職書法

一 受領の官達は唐名と書
るに貴族のの色。我乃よに云
べし。

一 上軍への状は封の氏に
除くべし。

一 連署の時先の名あり文より
かく日付よをきとせん。
よありあるは近きとす。
おととらへばとす。

とくし左と下とをいふ向の人
 多かふしうす。此はあつ
 んのあつ下官後かしてあつ
 人救乃多あつよ。とあつ
 ちうぶ。○九日初の下と判
 じう人下あつと日付乃
 下の第一初あつ人あつ
 名のあつあつ。但筆あつ
 あつあつあつ。連判はあつ
 是判のあつあつなり
 何れはあつあつあつ

正月十日

何某

何某

何某

上 何某

高石或三四人あつ

中 何某

連判も二介と三

下 何某

四人あつとあつ

一封皮乃あつあつとあつ

あつ二人のあつ同。あつ
 とも同。一あつあつあつ
 あつあつあつあつあつ
 あつあつあつあつあつ
 あり

何某様 ^上

何某 ^上

何某様 ^中

何某 ^中

何某様 ^下

何某 ^下

一 爲 ^上 而 ^中 之 ^下 事 ^上 凡 ^中 七 ^下 股 ^上 一 ^中 物 ^下 紙 ^上 爲 ^中 五 ^下 股 ^上

進 ^上 何某様 ^中 多 ^下 報 ^上

預 ^上 禮 ^中 友 ^下 之 ^上 事 ^中 多 ^下 報 ^上 何某 ^中

上官 何某様 ^中 多 ^下 報 ^上

何某 ^中

同 ^上 何某様 ^中 多 ^下 報 ^上

何某 ^中

何某様 ^中 多 ^下 報 ^上

何某 ^中

何某様 ^中 多 ^下 報 ^上

何某 ^中

何某様 ^中 多 ^下 報 ^上

何某 ^中

何某様 ^中 多 ^下 報 ^上

何某 ^中

脇 ^上 行 ^中 之 ^下 事 ^上 是 ^中 之 ^下 事 ^上 打 ^中 封 ^下 之 ^上 事 ^中 云 ^下

一 忍 ^上 情 ^中 謹 ^下 言 ^上

忍 ^上 情 ^中 謹 ^下 言 ^上

二 忍 ^上 情 ^中 謹 ^下 言 ^上

三 忍 ^上 情 ^中 謹 ^下 言 ^上

封 ^上 之 ^中 事 ^下 凡 ^上 七 ^中 股 ^下 一 ^上 物 ^中 紙 ^下

封 ^上 之 ^中 事 ^下 凡 ^上 七 ^中 股 ^下 一 ^上 物 ^中 紙 ^下

一 檢 ^上 文 ^中 之 ^下 封 ^上 目 ^中 上 ^下 中 ^下 下 ^上

一 誰 ^上 様 ^中 多 ^下 報 ^上

一 誰 ^上 様 ^中 多 ^下 報 ^上

大雅和 久業

密長く封目じりぐる

さふりぬ下書也

一上其誠恐謹言

某頓首誠恐誠惶謹言

右 誠恐之致也 但此二、今世不用
于書家

中 恐惶謹言 恐惶謹言

之 將謹言

下 恐之謹言 名、謹言と云ふ書
り極爲極く小の由也

之 恐之謹言 之と云ふは、恐惶後云ふに
比

之 恐之謹言

之 恐之謹言

之 恐之謹言

之 恐之謹言

一 脇附上甲下之江芽

一 板落物 好形

二 二切の念の恐惶謹言

三 恐惶謹言

四 已慎謹言 是と片謹言片致
しつゝ、
他を敬之、
高代甲の念、
人よりの、
又、

五 恐之謹言 又、

五 恐之謹言 又、

六 ことし

七 打付書 打付しつゝの事

ことしおとすこと
ことしおとすこと

八 打束しつ

打束しつ

打束しつ
打束しつ

一 打束しつ

打束しつ

一 打束しつ

二 打束しつ

三 打束しつ

四 打束しつ

五 打束しつ

六 打束しつ

七 打束しつ

八 打束しつ

一 打束しつ

二 打束しつ

三 打束しつ

四 打束しつ

五 打束しつ

又ら

右の如く此の如く以て信行の

う相廻也

一 魚とて信行の如く云々と信行

の如く也

一 此の如く進上と云うは進上

は進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

進上と云うは進上と云うは

回劔 回板 回輿 回答

此之類之右真草行レニサウキヤウ

上中下れ不レ易カハるレ也カれレ也カ

より真ニのレ宿ル所ニてレ何レ也カ

一ニ書ルとレ以テくレ丁ニ有ル分別ニ也カ

一書上中下乃の

御書ミカキ上ノ也カ 乃書ノカキ

貴キれレ上ノ也カ 乃ノれレ上ノ也カ

御ミ書カキ乃ノ書カキ

御ミ書カキ乃ノ書カキ

御ミ書カキ乃ノ書カキ

一向ヒトれレ乃ノ書カキとレ乃ノ書カキ又レ乃ノ書カキ

系ケイとレ乃ノ書カキ乃ノ書カキ

乃ノ書カキ乃ノ書カキ乃ノ書カキ

乃ノ書カキ乃ノ書カキ乃ノ書カキ

一乃乃乃上中下乃の

上 十月十九日

雅タカ果ガ殿ノ 是レ乃ノ書カキ也カ

中 十月十九日

雅タカ系ケイ殿ノ 是レ乃ノ書カキ也カ

下 十月十九日

雅タカ系ケイ友トモ 是レ乃ノ書カキ也カ

一九月日ツラの書シ一シ字ジの

くさべツラ。或ハ字ジのシで

ととセツなり

一曰ツラ字ジのシなり

田ツラ古シ字ジ

三好ツラ宗シ守ジ殿シ

貞元ツラ

一い書ツラ極シとシら付シとシとシづシ

もツラげシらシ也シ結シ友シ人シのシ

秋ツラ友シ熱シ前シちシ殿シ

長慶ツラ

一名字ツラとシ係シ官シのシなり

名ツラのシ極シ也シ

メ河ツラ川シ様シ

中ツラ

名ツラ某シ

名ツラのシ極シ也シ

メ河ツラ内シ守シ様シ

中ツラ

名ツラ某シ

名ツラのシ極シ也シ

一書ツラ署シのシ極シ也シ

名ツラのシ極シ也シ

名ツラのシ極シ也シ

名ツラのシ極シ也シ

下ツラとシ次シ字ジ

一尾ツラ接シ状シ若シ小シ封シ目シのシ

継^{ツグ}ぐ^{ツグ}と^{ツグ}ど^{ツグ}人^{ツグ}の^{ツグ}名^{ツグ}也^{ツグ}の^{ツグ}名^{ツグ}也^{ツグ}
の^{ツグ}名^{ツグ}也^{ツグ}。社^{ツグ}寺^{ツグ}院^{ツグ}の^{ツグ}号^{ツグ}也^{ツグ}。た^{ツグ}
在^{ツグ}。昨日^{ツグ}。今日^{ツグ}。伊^{ツグ}太^{ツグ}力^{ツグ}。伊^{ツグ}馬^{ツグ}。月^{ツグ}。日^{ツグ}。

教^{ツグ}の^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。教^{ツグ}也^{ツグ}。

一^{ツグ}後^{ツグ}ま^{ツグ}れ^{ツグ}文^{ツグ}章^{ツグ}の^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。字^{ツグ}也^{ツグ}。

げ^{ツグ}く^{ツグ}書^{ツグ}と^{ツグ}継^{ツグ}ぐ^{ツグ}なり^{ツグ}。又^{ツグ}名^{ツグ}字^{ツグ}固^{ツグ}

不^{ツグ}れ^{ツグ}名^{ツグ}也^{ツグ}。一^{ツグ}番^{ツグ}帳^{ツグ}な^{ツグ}れ^{ツグ}の^{ツグ}

目^{ツグ}録^{ツグ}く^{ツグ}わ^{ツグ}り^{ツグ}ぬ^{ツグ}。書^{ツグ}継^{ツグ}ぐ^{ツグ}と^{ツグ}書^{ツグ}と^{ツグ}

づ^{ツグ}く^{ツグ}書^{ツグ}こ^{ツグ}く^{ツグ}丁^{ツグ}也^{ツグ}。

一^{ツグ}作^{ツグ}と^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}れ^{ツグ}ぬ^{ツグ}。真^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。ま^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。

よ^{ツグ}出^{ツグ}切^{ツグ}り^{ツグ}貴^{ツグ}姓^{ツグ}と^{ツグ}は^{ツグ}げ^{ツグ}く^{ツグ}也^{ツグ}。

る^{ツグ}の^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。凡^{ツグ}假^{ツグ}と^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。

わ^{ツグ}ど^{ツグ}ら^{ツグ}り^{ツグ}と^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。書^{ツグ}継^{ツグ}ぐ^{ツグ}

ら^{ツグ}ど^{ツグ}

一^{ツグ}行^{ツグ}の^{ツグ}最^{ツグ}下^{ツグ}と^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。又^{ツグ}行^{ツグ}の^{ツグ}

カ^{ツグ}キ^{ツグ}と^{ツグ}書^{ツグ}と^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。行^{ツグ}の^{ツグ}最^{ツグ}下^{ツグ}

一^{ツグ}字^{ツグ}少^{ツグ}く^{ツグ}書^{ツグ}と^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。最^{ツグ}下^{ツグ}の^{ツグ}

第^{ツグ}一^{ツグ}字^{ツグ}づ^{ツグ}り^{ツグ}と^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。二^{ツグ}字^{ツグ}づ^{ツグ}り^{ツグ}

書^{ツグ}と^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。三^{ツグ}字^{ツグ}づ^{ツグ}り^{ツグ}と^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。

又^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}人^{ツグ}或^{ツグ}書^{ツグ}院^{ツグ}の^{ツグ}人^{ツグ}の^{ツグ}名^{ツグ}也^{ツグ}。

ら^{ツグ}は^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}づ^{ツグ}り^{ツグ}と^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。四^{ツグ}字^{ツグ}づ^{ツグ}り^{ツグ}

ま^{ツグ}字^{ツグ}づ^{ツグ}り^{ツグ}と^{ツグ}ま^{ツグ}字^{ツグ}也^{ツグ}。

一 各指指^スと^ハ西^{アチ}と^ハ後^{アチ}付^イ

三^ハ所^ハも^ハく^ハま^レれ^ハり^ハく^ハ中^ハ下

乃^ハ流^ハり^ハく^ハ也^ハま^ハ味^ハの^ハ文^ハ言^ハつ^ハ也^ハ

人^ハれ^ハ他^ハ言^ハひ^ハ身^ハ也^ハ又^ハけ^ハ三^ハ所^ハを^ハ

言^ハと^ハ流^ハり^ハが^ハ致^ハす^ハ也^ハ

一 後^ハ付^ハす^ハく^ハま^ハと^ハ不^ハ改^ハの^ハ後^ハ付^ハ

か^ハい^ハの^ハの^ハ也^ハ

一 我^ハは^ハも^ハく^ハの^ハま^ハと^ハ流^ハり^ハと^ハ不^ハ

改^ハも^ハか^ハり^ハの^ハ也^ハ

一 日^ハ付^ハす^ハの^ハま^ハと^ハ流^ハり^ハの^ハ也^ハ

ク^ハリ^ハす^ハ

一 之^ハ而^ハか^ハる^ハ條^ハの^ハ也^ハニ^ハあ^ハり

の^ハ致^ハれ^ハ助^ハす^ハも^ハく^ハ言^ハ不^ハ可^ハ継^ハ

れ^ハは^ハか^ハも^ハ多^ハく^ハ

一 其^ハ亦^ハ乃^ハ日^ハ行^ハの^ハ致^ハへ^ハあ^ハげ^ハく^ハ不^ハ

書^ハ字^ハを^ハ作^ハえ^ハ也^ハ事^ハも^ハ多^ハく^ハ也^ハ

か^ハあ^ハよ^ハり^ハふ^ハの^ハり^ハく^ハ

一 つ^ハの^ハれ^ハり^ハお^ハも^ハく^ハ

ち^ハど^ハ行^ハの^ハく^ハに^ハま^ハべ^ハり^ハ

し^ハぬ^ハも^ハ数^ハと^ハを^ハく^ハす^ハ可^ハ知^ハす^ハ也^ハ

乃^ハ下^ハよ^ハる^ハ字^ハを^ハも^ハす^ハの^ハり^ハ

は^ハこ^ハこ^ハわ^ハふ^ハを^ハた^ハは^ハな

その五にれどか山ぬと

終とをりて可きことなり

一 終云の終は云こく行と終

ハの十の偶数より終と終

をりて終の終は云こく行と終

一 串終より終らざる終

をりて終の終は云こく行と終

をりて終の終は云こく行と終

をりて終の終は云こく行と終

をりて終の終は云こく行と終

をりて終の終は云こく行と終

よるべし

一 終る一行終るは終と終

終也但まらんと終と終

の終は終るも終らざる終

の終は終るも終らざる終

の終は終るも終らざる終

の終は終るも終らざる終

の終は終るも終らざる終

の終は終るも終らざる終

四用と終

一 終る一行終るは終と終

中よ一ツと云ふは、キ付いたるべし。一ツ
と云ふは、キ付いたるべし。一ツと云ふは、
まゝの〇と業は、キ付いたるべし。一ツと云ふは、
ゆかりと云ふ。一書と一書と
戦ふと云ふ。一書と一書と
一書と一書と

一乃字と云ふは、一の字乃
と云ふは、キ付いたるべし。一乃字と云ふは、
一乃字と云ふは、一の字乃

一乃字と云ふは、一の字乃
と云ふは、キ付いたるべし。一乃字と云ふは、
一乃字と云ふは、一の字乃

一乃字と云ふは、一の字乃
と云ふは、キ付いたるべし。一乃字と云ふは、
一乃字と云ふは、一の字乃

一乃字と云ふは、一の字乃
と云ふは、キ付いたるべし。一乃字と云ふは、
一乃字と云ふは、一の字乃

一乃字と云ふは、一の字乃
と云ふは、キ付いたるべし。一乃字と云ふは、
一乃字と云ふは、一の字乃

一乃字と云ふは、一の字乃
と云ふは、キ付いたるべし。一乃字と云ふは、
一乃字と云ふは、一の字乃

一乃字と云ふは、一の字乃
と云ふは、キ付いたるべし。一乃字と云ふは、
一乃字と云ふは、一の字乃

一 字を以て字とすは字の字なり
しんす

一 所の字用極に字とて極に
用ひらるるは字なりは字の
字なりは字なり

一 書中不可と云文と言ふ

ふ方なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

字なりは字なりは字なり

復ゴ代ダイありは割れとちこり
一定キとハ物キのふくと命キとちこ
と也ツ提ツとハ天下コ國ド土トれ割れと
お定サちやるとちこれのはなふ
ハまへういど定サとハ法ハ復キ也キ
ふれフか考カと定サつとちこり
も也

一公コウのふとニとのふとかりん
トよとちこれ人ニとちこり
孫ソまへういど古コハ殿テン文ブンを
據コり

一白ハク便ベンとちこり日ニの由ユよ
お篇ヘン不フ然ゼンハ一ニあられり
ちこりもちこり日カ教カウとちこり
ゆユハままどちこりとちこり。是シが
ゆユハ復フ也ヤ的テキのままとちこり
いたしうちかこちも日ニとちこり
とちこりちこり便ベンハちこり
一作サクと云ク字ジ。行コウのよふとちこり
と也ツ。便ベンハちこりちこり
この下カちこりちこりちこり不フ

一 新^カ家^ケ人^ノの^ハ殿^ノ又^タま^ニ假^カふ^トも
べし。又^タま^ニと^テま^ニま^ニま^ニく^テま^ニ
く^テま^ニ今^ノ所^ノい^ハし^タま^ニく^テま^ニ
ら^ニん^トも^ニ我^レハ^ニ又^タま^ニ假^カふ^ト
こと^ハ乃^チそ^レハ^ニ好^シま^ニと^テま^ニ假^カ
し^タま^ニん^ト。又^タま^ニ假^カふ^トも^ニ
一^ト世^トと^テま^ニ假^カふ^トも^ニ好^シま^ニ
下^ナり

一 凡^ソそ^レ乃^チ礼^トも^ニ母^トを^シら^ニん^ト
く^テま^ニつ^テま^ニ字^ト又^タま^ニ假^カふ^トも^ニ
海^ノ東^ノ天^ノ子^トと^テま^ニ假^カふ^トも^ニ
下^ナり

人^ノも^ニ文^ノ字^トを^シら^ニん^トい^ハく^テま^ニ
べし。又^タま^ニ假^カふ^トも^ニ好^シま^ニ
い^ハく^テま^ニ天^ノと^テま^ニ假^カふ^トも^ニ
乃^チび^ニ漢^ノ酒^トの^ハ人^ノれ^トと^テま^ニ
一^ト座^ト下^ナり^ト 座^ト下^ナり^トの^ハ
く^テま^ニん^トと^テま^ニ假^カふ^トも^ニ
乃^チび^ニ漢^ノ酒^トの^ハ人^ノれ^トと^テま^ニ
べし。凡^ソ下^ナり^トの^ハ人^ノれ^トと^テま^ニ
く^テま^ニん^トと^テま^ニ假^カふ^トも^ニ
結^スぶ^トる^ハ竟^ス也^ト。又^タま^ニ假^カふ^トも^ニ
下^ナり

ま〜〜ん

一人きり一人これにま〜

か〜のふりま〜

合点か〜

一、熱動〜

〜

〜

一、熱動〜

〜

〜

〜

け〜

一、男れ〜

〜

一、傳と〜

乃真行草小殿の真行草

書い織田信長云れ

よ不書い

殿と云もの

〜

〜

ト赤ねのしちる

一市^{トシ}柳^ユなるは柳^ユのひいとちる。

柳^ユのひいとちるしと柳^ユのひいとちる。

乃^ノゆ^ユなる市^{トシ}はひいとちる。

ひいとちるしと柳^ユのひいとちる。

悔^{クハ}しくけらるるしと柳^ユのひいとちる。

我^ガよりぬりしと柳^ユのひいとちる。

りあり

五書式圖

一は柳^ユのひいとちるしと柳^ユのひいとちる。

てのさるもの人へは柳^ユのひいとちる。

一。柳^ユのひいとちるしと柳^ユのひいとちる。

とくそべ付^{ツキ}しと柳^ユのひいとちる。

ちあり

原左京大夫

秋庭備中守殿 長勝

一是^{コト}の^ナは^ナれ^ルしと柳^ユのひいとちる。

なり圖^ズの^ナり^ルしと柳^ユのひいとちる。

松尾信濃守

大膳大夫殿 長元

い何^{ナニ}の^ナり^ルしと柳^ユのひいとちる。

とあり

一 是もまゝに人の心根を以て
心根よりハ移レ。心根を以て
心根を以てハ移レ。心根を以て

松尾信忠守

山名右衛門尉殿 長元

一 進賢書也。是又上書人乃

徳極之。是ハ人々よりハ移レ

移レ。是ハ人々よりハ移レ

徳極之

原左馬助

一 色丹後守殿 貞信

一 同書人ハ徳極なり

伊勢守書

上野氏初大補殿 貞信

一 上書人ハ此礼ノ也。ハ此礼也

源氏ノ也。ハ此礼也

松尾信忠守

大膳書殿 長元

一 同書人乃此ノ也。ハ此礼也

松田左馬助

三好統前守殿 貞信

長元

一 けさ移をうら付さくまづに
とさげらる 移之波友程のて

うら付まこ

安友紙着ち取 長慶

一 けさ移をうら付さくまづに
一乃酒徳。茅草の町を上
も実なみしりてこ。箱箱の敷
ととさく。桶よ入るおの幾桶
ときさ。海と係らぬの看る事
多くとほ小移とさく。魚もた
らるるを乃の町にまるとまよ

と朝鶏あくと魚と興よさく
移去乃の町に移をぬい不好。但
昆布をよ流るく魚もれ中
よ可さ少ゆをよ流るく移れ
およさく
一 移小綿糸。子丁子もさ
乃移目録よさ。代のやま
わと初ふさりのなりとさり

進上
白鳥
一羽
鷹
一羽

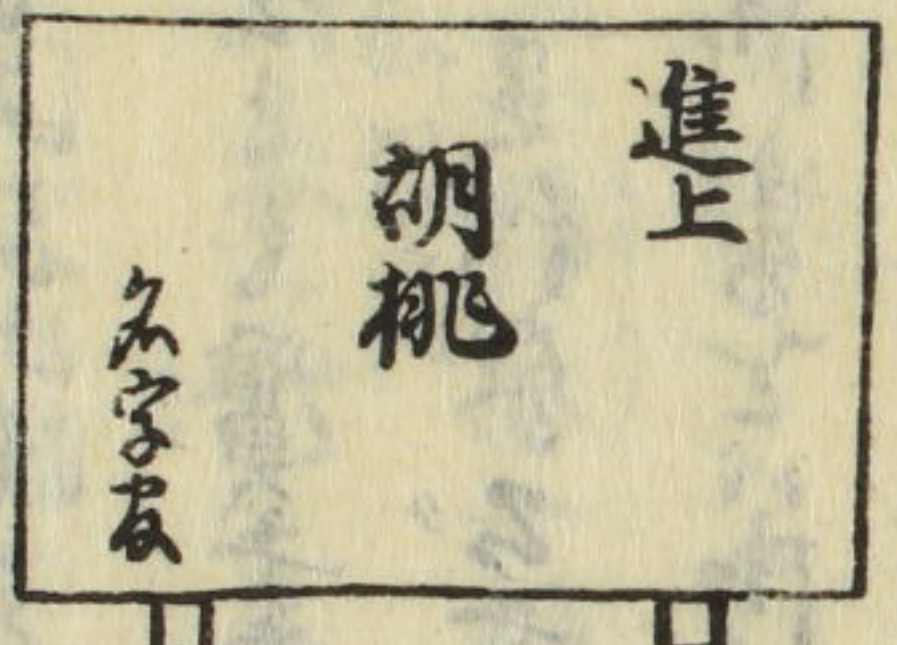
鯛	一折	箱のまじり
鱈	一折	此の箱乃
海月	三桶	作り置き
以上		不味い
		大口魚
一色	茶	
	宗	

一 料紙三上下しぬ。大飛等容
より六寸まゝく乃料紙よ。二容
半程小等とまゝく下三分半程
上よりくまゝのこ
一 折紙は、フリカミ 武家方ガ之紙
ホラタニ 三寸六分並くは
と。二寸と月日之月三寸容。

月日より並アテす。二寸容。
上寄小まゝ。又物とよ。存テ月
日より並アテす。二寸八分は。
才之。但去つり。紙シを。四ハ
か。二寸八分より。五
ヨシ 二寸のわら。まゝ。き
一 古紙之。昔オカシハ。下。其。宗
揮ラシけ。心。安マスキ
方ハ。古紙の。お。ろ。く。と。云。治シ
し。ろ。く。有。之。ハ。進。ら。ち。ま。す。る

りしとて、^{ハコ}は板の可なり
 或^{ハコ}進^{ハコ}の板^{ハコ}の^{ハコ}さく^{ハコ}さく^{ハコ}板^{ハコ}
 板^{ハコ}乃^{ハコ}三^{ハコ}寸^{ハコ}六^{ハコ}分^{ハコ}れ^{ハコ}一^{ハコ}の^{ハコ}二^{ハコ}行^{ハコ}す
 と^{ハコ}か^{ハコ}さ^{ハコ}つ^{ハコ}る^{ハコ}ま^{ハコ}さ^{ハコ}ぐ^{ハコ}も^{ハコ}さ^{ハコ}ら^{ハコ}有^{ハコ}
 急^{ハコ}と^{ハコ}ん^{ハコ}じ^{ハコ}い^{ハコ}。田^{ハコ}付^{ハコ}の^{ハコ}昔^{ハコ}懸^{ハコ}其^{ハコ}ふ
 出^{ハコ}り^{ハコ}の^{ハコ}糸^{ハコ}の^{ハコ}不^{ハコ}叶^{ハコ}極^{ハコ}の^{ハコ}さ^{ハコ}べ^{ハコ}い
 の^{ハコ}古^{ハコ}さ^{ハコ}ふ^{ハコ}さ^{ハコ}ふ^{ハコ}の^{ハコ}不^{ハコ}見^{ハコ}及^{ハコ}ま^{ハコ}の^{ハコ}
 今^{ハコ}以^{ハコ}て^{ハコ}此^{ハコ}の^{ハコ}と^{ハコ}る^{ハコ}て^{ハコ}板^{ハコ}の^{ハコ}式^{ハコ}に^{ハコ}し^{ハコ}
 ハ^{ハコ}と^{ハコ}え^{ハコ}る^{ハコ}と^{ハコ}
 一^{ハコ}板^{ハコ}文^{ハコ}結^{ハコ}文^{ハコ}の^{ハコ}奥^{ハコ}乃^{ハコ}板^{ハコ}の^{ハコ}板^{ハコ}に^{ハコ}は^{ハコ}
 の^{ハコ}り^{ハコ}。一^{ハコ}寸^{ハコ}八^{ハコ}分^{ハコ}並^{ハコ}と^{ハコ}り^{ハコ}初^{ハコ}の^{ハコ}こ。

一^{ハコ}足^{ハコ}の^{ハコ}板^{ハコ}の^{ハコ}さ^{ハコ}く^{ハコ}乃^{ハコ}出^{ハコ}付^{ハコ}板^{ハコ}
 板^{ハコ}の^{ハコ}さ^{ハコ}く^{ハコ}と^{ハコ}



六名称

一^{ハコ}天^{ハコ}子^{ハコ}仙^{ハコ}洞^{ハコ}の^{ハコ}浄^{ハコ}の^{ハコ}つ^{ハコ}と^{ハコ}出^{ハコ}板^{ハコ}

物の 宸筆 宸翰 勅筆

あつ云沛の字不封

宮門函乃去ゆふとハ沛筆云

舟人のとばハ沛筆云ハ真と

其筆又ハ沛筆云ハ沛筆を

ハ沛筆云ハ沛筆云云

一しハ沛筆云云

沛下沛書とハ沛内書云

表向より沛筆ハ老中ハ沛

云ハ沛内書ハ沛内書より

沛筆云云

云云也又沛内書ハ教書ハ

潤ふかり有之沛内書ハ

沛中ハ沛一重ハ沛之封

と常ハ沛ハ沛ハ沛ハ沛

教書ハ沛一重ハ沛之封

不封表色と只推ハ沛

と不引又沛内書ハ月日ハ

ハ沛ハ沛ハ沛ハ沛ハ沛

沛ハ沛ハ沛ハ沛ハ沛

沛ハ沛ハ沛ハ沛ハ沛

沛ハ沛ハ沛ハ沛ハ沛

沛ハ沛ハ沛ハ沛ハ沛

わすこれ名^ナ孫^ミ今^{イマ}か^カれ^レじ
とく^{トク}の^ノ人^{ヒト}

一武家^{トウサケ}も^モ五^イ次^ジ入^イり^リて^テも^モ禁^{キン}中^{チュウ}め^メて^テ奏^{ソウ}回^{カイ}と^トも^モ奏^{ソウ}

乃^ノ字^ジと^ト思^{オモ}ひ^ヒく^ク五^イ次^ジと^トも^モ

臣^シ下^カも^モ奏^{ソウ}者^{シャ}と^トも^モ

大^{オホ}け^ケの^ノい^イひ^ヒが^ガこ^コと^トも^モ

一攝^{セツ}家^カ又^{マタ}は^ハ依^ヨ見^ミ殿^{テン}か^カと^トも^モ所^{ショ}

所^{ショ}と^トも^モ云^{イハ}へ^ヘと^トも^モ

一親^{シン}王^{ワウ}家^カも^モ伏^{フク}見^ミ殿^{テン}八^{ハチ}条^{ジョウ}殿^{テン}也^{ナリ}

王子^{オウジ}の^ノ御^ミ座^ザと^トも^モ

帝^{テイ}位^イと^トも^モ冊^{ソク}封^{フウ}と^トも^モ攝^{セツ}家^カ記^キ

小^コ刀^{タウ}と^トも^モ

一御^ミ家^カ門^{モン}と^トも^モ攝^{セツ}家^カ元^{ゲン}と^トも^モ

御^ミも^モ孫^ミと^トも^モ

一禁^{キン}中^{チュウ}に^ニ侍^シは^ハ侍^シと^トも^モ御^ミ座^ザと^トも^モ

云^{イハ}院^{イン}の^ノ侍^シと^トも^モ小^コ刀^{タウ}と^トも^モ

此^{コノ}物^{モノ}を^ヲ帯^{オビ}ひ^ヒと^トも^モ

一天子^{テンシ}の^ノ御^ミ座^ザと^トも^モ勅^{チク}詔^{シウ}と^トも^モ

詔^{シウ}と^トも^モ御^ミ座^ザと^トも^モ御^ミ座^ザと^トも^モ

親^{シン}王^{ワウ}の^ノ御^ミ座^ザと^トも^モ今^{イマ}旨^{シメ}と^トも^モ

一稱^{ショウ}号^{ガウ}ハ^ハ氏^シ也^{ナリ}今^{イマ}此^{コノ}儀^ギと^トも^モ

稱^{ショウ}号^{ガウ}ハ^ハ氏^シ也^{ナリ}今^{イマ}此^{コノ}儀^ギと^トも^モ

字と云。細川に名するの跡と
云。他名に常れくは、何れも何れも
かゝる。かりりたる。な。速。也。也。
實久の。名。家。也。及。速。一。百。官
也。受。領。の。名。も。こ。ら。家。の。名。
字。と。稱。号。と。云。必。案。と。名。
号。と。云。武。家。と。名。姓。氏。と。稱。
号。と。云。名。業。と。名。の。り。と。云。
一。姓。氏。と。名。も。も。も。も。の。り。也。
一。姓。氏。と。名。も。も。も。も。の。り。也。

と云。一。世。二。世。と。云。一。世。二。世。と。云。
と云。一。世。二。世。と。云。一。世。二。世。と。云。
と云。一。世。二。世。と。云。一。世。二。世。と。云。

一。法。師。の。位。位。と。下。初。位。と。云。と。云。
一。勅。宣。と。云。凡。の。詔。と。云。詰。勅。れ。
文。の。名。目。よ。い。わ。く。と。云。
一。口。宣。と。云。職。事。奉。と。云。と。云。
一。宣。令。の。詔。書。よ。い。わ。く。中。臣。
後。乃。文。れ。と。云。
一。朝。也。之。の。位。署。書。れ。可。也。
一。位。署。と。い。は。れ。と。云。亦。友。位。を。

書後口訣下

八神紙

一 鷲口乃結書札

奉掛鷲口之緒

三 鳴大明神廣前為諸願成就也

年号月日 名字言氏之末

一 戸帳之書札

奉掛御戸帳

三 鳴大明神 廣前

年号月日 三好越中守平政久

一 淨之浴衣

奉寄進息鐘一口 又云うらたけの
共寄進也

熱田大明神 廣前

年号 月日

此のふりかき号
是号のついでに
ある

一石燈籠之付

奉寄進 又麻上 石燈臺一基

春日大明神 廣前

年号 月日

一繪馬之付之事

年号 月日 三好越中守平朝臣政

奉掲繪馬一編 書上何某

住吉大明神 廣前

一靈社之起請文之事

敬白 諸靈社

奉請上苑天帝釋四天王日月

星辰下堅牢地祇五道冥官泰

山府君殊者日域之本主天照

内外兩宮熊野權現三所別而王

城之鎮守賀茂上下祇園北野稻

荷愛宮貴布祢大原野梅宮松尾

平野并諸國靈神八幡春日住吉

日吉立田廣田大峯葛城丹生日

前彦山氣比叢鳴立山白山藏玉羽
黑關東守護神伊豆宮根富士淺
間日光鹿嶋并生國民神社惣而日
本國中六十餘州大小神祇自言若所
載于前書之旨趣於構毛頭詐偽者
相蒙所奉請之神罰於此身現匪
帝失弓箭之冥加受白癩黑癩重
疾而永絕人倫之文來匪翅墜阿鼻
之奧底逼牛頭馬頭之所呵責而再無
浮出之期必矣仍靈社討文如件

年号月日 姓名判

凡天帝釋四大天王等神道所不拜也
冥稱天神地祇從俗同祈書而存之
而已

願書之儀之事

右願者國家安全武運長久息
延命為祈念也茲者神者依入之
敬增威人若依神之加護添運因
茲奉仰諸願成就狀如件
一 茲引依前書條教之事大抵三ヶ
條の注之付より之ハ不苦但ヶ條
多き時ハ二三ヶ條ハ限るべしとす。
右の條教を以て之。茲引依

かぎくしん。ハツハハヒ一とさる
去乃中あり

一牛五つとばる。牛五ハ上ハ下
去の紙ハ下ト下なる物トつとて。

幸れけさやうよかりわりの
小者や一と工高百姓多ハ重

法乃紙と角の土ハ五社不
自由也子細りの但可宜ト可路

正遷宮トハハ社を新築ト云
て社と稱ト一ハハ假遷宮ト

ハハ社再興ト刻假殿ト社ト
とらへり

九官位

一初主乃所時代君行改る根の所

元服の儀事とあつりハハ園白と
も。根の儀事ト云ハハ。其ハ

昭宣ト云ハハト是ハ下ハハ
神功皇后ト仲哀崩ト云ハハ

後ハ根の儀事ト云ハハ。帝王トハハハ
根の儀事ト云ハハ。子根の儀事ト

奇明の儀事ト云ハハ。中大兄ト云ハハ
根の儀事ト云ハハ

根の儀事ト云ハハ

一 或書曰攝家大臣の下の初

官中将少將の位と云ふ事多

く和名侍従ふ位と又云ふ事

ありて攝家の元服の位

かたは侍の位に攝家の位

わたりて清花の位と云ふ

位も侍の元服の位かたは

侍と

一 元服して初く五位と云ふ位

叙爵と云

一 昇進の次第侍従より

宰相也 も羽林家の 侍従辨宰相

相 も名家此昇 頭 ハ中 の辨共

こづりより ハ が初を

なかり ハ 家昇 ハ 羽林家

乃 ハ 身也 ハ ね ハ とも

一 諸大夫の叙と云ふ ハ 不謂位

よ ハ 侍と云 ハ 叙爵と云

位 ハ 叙と云 ハ 叙と云 ハ 叙

四位 ハ 叙と云 ハ 叙の位 ハ 叙

らむ。いふは女のかへりてなむと
と権なと云

一外記官務考凡堂とせむる
人を地下と云

一叙留とハ別なふほどと云
も舊なえりてなむと云

大ねぬえりとのたなり
尸と云ふはなぬとあり。跡

一人連宿跡と凡二下ふ
り。はふのし。氏よりしす。

常盤連武内宿禰吉備五人
るものたせ。むらうと云ふは

一熟十二等と云ふ。唐とて日
よもつり。り。人日なり。作紙

よとつり。又功長と云ふ。一
より十二等と云ふ。一等

三位。二等は三位也。十二等
は六位也

十 疾病死喪

一病人ハを柳ノハ後平金と云

出づるに^{入三}きと^二く^一可^レき^レと^レも^レか
忍^ア者^シか^レく^レと^レ字^ニよ^リく^レい^ハき^ト
継^スべ^クす

一 串^ナ珠^ルる^ハ即^ニ可^レし^ト也^ナ
つ^レと^レも^レか^レく^レい^ハき^ト
結^ビた^レも^レあ^リけ^レば^レ死^ニ押^サ
と^モら^レ可^レい^ハぬ^レも^レ即^ニ可^レし^ト
く^レく^レい^ハ可^レし^トす^レ勿^レ痛^ムた^レ後^ニ
可^レい^ハ可^レし^トす^レ二^ニ付^ルと^レ断^ル云^フ
丁^ノと^レ也

一 串^ナ珠^ルる^ハ封^シ目^トす^レも^レ可^レし^ト
会^ノの^レ人^ハも^レ同^シ

一 串^ナ珠^ルる^ハ也^ナも^レ協^シ付^テ進^シ覽^ス也^ナ
流^ルと^レく^レ一^ニ有^ルく^レ也^ナ流^ルと^レ流^ルと^レ
全^ク不^レ可^レ用^ス之^ナ
一 天子^ノに^レ御^スと^レ違^フ例^ト也^ナ
二 かの^レ也^ナ病^ム死^スと^レ不^レ例^ト也^ナ
一 忌^ム日^トも^レあ^リけ^レば^レ可^レし^ト也^ナ
月^ノ字^ト也^ナ。或^ハ祥^シ月^ト也^ナ也^ナ
大^ニ祥^シ小^ニ祥^シの^レ也^ナ也^ナ也^ナ也^ナ
可^レ也^ナ
一 死^スと^レも^レ天子^ノに^レ崩^ス御^スと^レ也^ナ

后キチも同ト善ガ文シ教シをカ文カよハ
 薨ニヤギ逝キ。或ハ云フ若シ宮ノ御カシ親シ王ノ雲
 白セツ攝シ政シ女ノ御カシ傍シ家ノ活キ死シ乃シ今ノ命
 薨ニヤギ逝キ。ツリ人ノ云フ方ノ他ノ世界ノと
 云フ。近キ古ノ薨ニヤギ逝キ云フ。教シとシ人ノ云フ
 此ノ法ノ大ニ公ノ逝キ云フ。ツリ
 の平ノ人ノ云フをカりカとシ云フ。傍シよハ
 遷シ化シとシ云フ。庶シ民ノ死シ云フ。自シ死シ云フ。自
 害ガ自シ殺シ。人ノよリ押シ付シとシ教シとシ曰フ。
 生シ害ノおシ動シくシ死シとシとシ曰フ。相シ果シ下
 とシとシ殺シ上シ曰フ。殺シ

一 帝ノ御ノ進シ退シはシ去リすル云フ。傍シにシ云フ。此ノ法ノ大ニ公ノ逝キ云フ。ツリ
 ぬキ又シ相シとシ云フ。傍シにシ云フ。此ノ法ノ大ニ公ノ逝キ云フ。ツリ
 此ノ法ノ大ニ公ノ逝キ云フ。ツリ
 或ハ九ノのノ丸ノのノ殺シとシ云フ。

十一 僧家

一 傍シにシ云フ。侍シ者ノ中ノ武ノ家ノのノ人ノ々
 中ノにシ曰フ。
 一 天台ノ真ノ言ノ總ノ持ノのノ寺ノ院ノ院
 号ノ曰フ。名ノ云フ。
 一 院ノ号ノはシのノ殿ノ云フ。とシ曰フ。とシ云フ。
 故シにシ院ノ号ノはシのノ殿ノ云フ。とシ曰フ。とシ云フ。

ことりし。可^キ也

目^ニ運^レ宗^{シテ}く^レの^レ大^ニ抵^{シテ}天^ノ台^ノと^{シテ}言^フ事

同^シ。ち^ノ号^ガ院^ノ号^ヲ 山田名中

一 社^ニ僧^ノ其^レ社^ノ某^ノ院^ノ出^ル房

一 院^ノ出^ルの^レ換^レ校^ノへ^テ換^レ校^ノ出^ル房^ト

有^リ。脇^ノ附^ノ床^ノ下^ノへ^テより^テ書^ク奉^ル

一 淨^ニ土^ノ宗^ノ 院^ノ附^ノ侍^者中^ノ侍^者院^ノ中^ノ

一 寺^ノ院^ノ坊^ノ号^ノ小^ノ極^ノ書^ノと^{シテ}の^レ五^ノ可^シ

院^ノ中^ノの^レ各^ノ別^ノ和^ノ尚^ノ上^ノ人^ノへ^テ

極^ノ平^ノ云^ク。軒^ノ菴^ノ育^ノ号^ノと^{シテ}極^ノ

ま^ニづ^ク。但^{シテ}思^フ且^ニま^ニづ^ク。

一 佛^ノ家^ノへ^テま^ニづ^ク。い^ハま^ニづ^クを^シた^シ院^ノ

中^ノま^ニづ^ク極^ノ致^ノなり

原左馬助

拜上光源院 侍者中 負信

又^ニ院^ノ名^ノと^シま^ニづ^クの^レ字^ノと^シま^ニづ^クの^レ

と^シま^ニづ^ク不^レ極^ノ

又^ニ院^ノ名^ノと^シま^ニづ^クの^レ字^ノと^シま^ニづ^クの^レ侍^者院^ノ

或^レ院^ノ下^ノま^ニづ^クの^レ字^ノと^シま^ニづ^クの^レ

ま^ニづ^クなり。又^ニ院^ノ上^ノ拜^進院^ノ名^ノと^シ

不^レま^ニづ^クして^テま^ニづ^クの^レ字^ノと^シま^ニづ^クの^レ

さういふ様。但さういふ
ひらるる

一 首座シニの中ニもして長老チヤウ回前クワイゼンの
者有アリ。さういふ侍者シヤウシヤウ出中シュチュウ勿論ムロ。

又侍者シヤウシヤウ沙中シャチュウとかくて。さう下
玉床タマドコ下カも勿論也。机下キカハ次ツギ。又

一 茶チヤを座下ザカハ宗シユウ教キヤウ勿論ムロ。
一 座ザをシ入ニれル様サマかクのニとスハシ。
外ソト宗シユウ教キヤウなり

魚左馬助

真光寺 系沙回宿中 貞信

一 是コトも貴族也。五イ玄ソ太ウなりハ種シユし

魚左馬助

実相寺 山坊中 貞信

一 或ナラバ書シ曰ク僧正ソウジヤウ法務ホウム律師リツシ乞キ
等トウハ官也クワンニ法ホウ社シャはガ眼ガンはカ傍ホウをシハ
ハ位イなり

一 傍ホウ官クワン者モノとシてクもト下カ下カハシ。
自ジ稱ショウハ官クワンとシてクハシ。はシ傍ホウ茶チヤ

也ニハシとシ下カとシすベ。他タとシ終シュウ

とシてクハシとシすベ。何ナニもシハシ。
平ヘイ也ニハシなりト。

一 門カド 宮門ミヤカド 也 云方クハ 門カド 也

攝セツ 教ケウ 門カド 清セイ 花ケ 門カド 又 攝セツ 清セイ 門カド

わくざんと云セウ 俗ゾク 不フ 攝セツ 門カド 也 云 官クワン

子シ 出シュツ 家カ 一イツ 攝セツ 門カド 注チュウ 釈シャク 事ジ 号ガウ 号ガウ

白ハク 河カ 院エン 乃ノ 皇クワン 子シ 号ガウ 乃ノ 注チュウ 釈シャク 事ジ

一 初ハツ 門カド 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

大ダイ 僧ソウ 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

攝セツ 門カド 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 仁ニ 和ワ 寺ジ 官クワン 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 仁ニ 和ワ 寺ジ 官クワン 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 仁ニ 和ワ 寺ジ 官クワン 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 仁ニ 和ワ 寺ジ 官クワン 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 大ダイ 覺ケツ 寺ジ 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 大ダイ 覺ケツ 寺ジ 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 大ダイ 覺ケツ 寺ジ 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 隨ズイ 心シン 院エン 攝セツ 教ケウ 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 隨ズイ 心シン 院エン 攝セツ 教ケウ 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 隨ズイ 心シン 院エン 攝セツ 教ケウ 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 隨ズイ 心シン 院エン 攝セツ 教ケウ 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 勸クワン 修シュ 寺ジ 清セイ 花ケ 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 勸クワン 修シュ 寺ジ 清セイ 花ケ 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 勸クワン 修シュ 寺ジ 清セイ 花ケ 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 三サン 寶ホウ 院エン 攝セツ 教ケウ 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 三サン 寶ホウ 院エン 攝セツ 教ケウ 門カド 也 云 乃ノ 寺ジ 乃ノ 寺ジ

一 毘沙門堂 清光門也。東麓山

は任所より大宰府に遷りて法大

名亮より遷れの亮もろくべしな

り大僧正なり

一 層後院 宮門也。三井寺に

長吏よりつくる所なり。此の

山伏修験道の頭なる也。然野

三山に檢校職とす。三井

寺より修験をみる所なり。細

酒元。天治二年五月。三井寺の

所より大僧正より法行。初ら然野

三山檢校より檢補。是より修

る所より寺より。又法然上人

乃先年より修する所なり。然野

建長七年三月。三山檢校。覺仁

然。至仙洞。然野へ法華の

ハ是と初とす。亦兼宗より所入

室より。一代一法に在る有る

一 實相院 此方門也。三井寺に

吏よりつくる所なり。亦兼宗

備後前門主。修験道の檢校より

修する所なり。是より

一圓満院 花の裏の河内准将

大三ヶ寺の三斗寺の宮門迄也

も矢とつりくわす人

一東院 古の宮門迄也

宮門迄也

一大東院 古の宮門迄也

の迄也。大ニ々々ニ興福寺の宮門

迄也。は相宗と云ふ。はかま

の寺なり

一知恩院 宮門迄也

一本願寺 西と世作と表とをば柏

東院大永元年三月の頭也

人小唯石門迄と物許のり云

傳人より。當時の武家の家

柄家の江日能より云々

と表とをば。はかまの

相なり

一真正寺 西の形を属せり。是

もは柏東院の宮門迄の号

と物許ありと傳人より云

正信寺の号也

一佛光寺 是も真宗一院の

寺なるゆへ世俗よそも門徒

住ジシどろよしも門徒の号なる

一勢初一畝田專修寺セウシュウジをよも一畝田イチクデン

宗シウれいなる門徒軍門カク

唯ジシどろやうの沙汰あり

又モシキヤキ四祀あり

一テシダケ天台真言テシダケの南宗ミナモトの門徒

云々宗の口より

流カクあり

根ネ元ノれカク竟シ漫シ漫シ也カク根ネ元ノれカク

高タカ者モノ云フ破カク却カクれカク後ノ系ノれカク

和ワ州シウも右ミダリの小池コイケに二寺ニジ新ニ興キウの

か寺シラしシりシ知チ務ム池イケ小池コイケ坊ボウ何ナニれカク

信シ心シンのノ位イ位イ金剛キウカウ華カ寺ジのノ首ウチと

ハカク換カク校カクとカク云フ下カク下カクとカク云フ叙シとカク

外ソト真マ言ゴンのノ寺ジくカクもカク多タくカクハカク中チュウ

まカクどカクくカク叙シとカク

一ニシラ層シラなるカク處カク上カク所カク

一ニシラ滅シラ忍シラ教シラ白シラ

三ニシラヒシラトシラ忍シラ者シラ

宛アテ所シラ院シラ号シラ寺シラ号シラ其シラ信シラ正シラ所シラ房シラ

脇ワキ付シラ院シラ号シラ寺シラ号シラ其シラ信シラ正シラ所シラ房シラ

二ニシラ院シラ号シラ寺シラ号シラ其シラ信シラ正シラ所シラ房シラ

三 寺下 四 寺下 八 寺下

河内宿中へ美人の中へ准也。

河内宿中へんの中へ准也。所

坊中へ宿中へ准也。信也。

河内宿中へんの中へ准也。

准也。

一 或説曰信也。大信也。

大信言。信也。准也。信也。

准也。信也。准也。信也。

後。信也。准也。信也。九信也。

一 若王寺 不動院右二ヶ寺。大

信也。信也。信也。信也。

信也。信也。信也。信也。

一 勝徳院 是也。信也。信也。

信也。信也。信也。信也。

一 信家 二階堂行二ヶ寺。信

の信也。信也。信也。信也。

一 河内宿中へんの中へ准也。

河内宿中へんの中へ准也。

一 信家へ上所

- 一 誠忍教白
- 二 忍信教白
- 三 忍信教白

究所ニ 一 加名ニ 二 某寺

勝村 侍者ニ 侍者ニ 侍者ニ 侍者ニ

三 蒲園ニ

返打 一 二 三 四

右 左 右 左 右 左

乃字とけりるも信忍れあやまり
 かりるまの字拜の字よ人
 まのまよとまねの字よ人
 よろしうべ

一 信忍司とまの 後後 康曆
 元年 妙範園師 南洋寺 信忍
 時 鹿苑院 信忍 信忍
 信忍司と信忍 信忍 信忍
 文安三年七月 相國寺 老風
 号 麻室 信忍 信忍
 信忍司 妙範 信忍 信忍

よは持とる者流は後流は後流
とて副とて五山十刹とて
金剛次武蔵より又帖と持つる
は故の山十刹のち方家し持つる
とてくむ今まお前とては後流
又相承へ移つてたををよむ
ても後ちお後して金地院後流
目とて五山出世のゆと五次
五山世に法牙書記の記をせ
孫家西堂とのつとて是まて
ねとてく相承許西堂のとも

老と。是勅何と

一 東堂ハ勅許也 編旨く死不

る号よ和尚禅室と後書と

より和尚くも也トて得宗ハ云

官云位也中をいふ方家の也

所望と和尚号といふ衣とと

勅許あり。自後ちハ後流は云

ハ後流は云也。也トてふとて出

とて味し。後流可有後ちの金

地院ハ断つ。金地院よりとて

そとと考へが寺に水年寺
あり。許ゆとて。京に
多きとて。城にて。修
修するへ。一。修
載し。其衣と。其
そのとも。号と。あ
おは。名。と。と
浄土宗。真西山。二。流あり。修
あは。然。上人の。弟子。聖光。と。人。
統。後。若。守。寺。の。百。一。と。と。と。
後。活。湯。の。お。の。流。と。と。と。と。と。

九法。河。流。保。と。云。西山。流。保。と。云
い。も。法。然。と。人。の。才。子。聖。光。と。人。
三。銘。寺。の。住。持。と。云。京。に。お。の。心。と。と。
中人。の。流。保。と。云。法。河。流。の。住。持。
寺。の。住。持。院。と。云。名。金。戒。光。明。寺。
百。五。遍。知。寺。浄。華。院。と。云。法。
四。ヶ。乃。が。寺。と。云。今。若。守。寺。
八。属。知。聖。院。乃。が。寺。住。持。職。ハ
い。名。衣。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
三。指。引。遣。迎。院。也。是。と。住。持。ハ
山。名。衣。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

一家の号ありふらん。その家よ
く多之。浄土宗よ。此世は浄土
の宗。衣乃と先一衣。衣乃と
先よ等し。かゝる。衣乃の
色衣と名し。此世と衣乃と
と云。云。是も色衣。衣乃と
免。浄土宗乃。免堂。水十人。と
る。衣乃の下の平僧。又門。衣乃
地官。衣乃の。下回と云。衣乃と進
何事と。教乃の。衣乃の。衣乃の
之。衣乃の。衣乃の。不可。衣乃の

不。衣乃の。衣乃の。衣乃の。衣乃の
物。衣乃の。衣乃の。衣乃の。衣乃の
何も。衣乃の。衣乃の。衣乃の。衣乃の
中。衣乃の。衣乃の。衣乃の。衣乃の
り。衣乃の。衣乃の。衣乃の。衣乃の
一。衣乃の。衣乃の。衣乃の。衣乃の
衣乃の。衣乃の。衣乃の。衣乃の
衣乃の。衣乃の。衣乃の。衣乃の
衣乃の。衣乃の。衣乃の。衣乃の
衣乃の。衣乃の。衣乃の。衣乃の
中。衣乃の。衣乃の。衣乃の。衣乃の

お寺相別有沢法淨シヤク支シヤクと号
と。上人とい代、何の法と云ふ
職シヤクと上人の法と所シヤクり。徳シヤク所
八右次は位と

一 日蓮宗 本寺と稱するは
山シヤクと云ふ。甲斐シヤク久シヤク山シヤク
と云ふは、かちのやうに、
まゝも右位の経法シヤク之シヤクが
の位持シヤクの位シヤクまシヤクどシヤク位シヤクは
かちの位持シヤクと人シヤクと位シヤクとる。淨
と云ふは、上人とい代、何の法と云ふ

日蓮宗の宗義 物許シヤクす。之。日
蓮宗編シヤクの法シヤクと云ふは、淨
土シヤクの法シヤクと云ふ。今シヤク、
法シヤクの中シヤクと云ふは、淨土シヤクの法シヤクと云ふ。
之シヤクの法シヤク淨土シヤクと云ふは、淨土シヤクの法シヤクと云ふ。
と云ふは、淨土シヤクの法シヤクと云ふは、淨土シヤクの法シヤクと云ふ。
物許也

一 律宗 聖武シヤク之シヤク河唐シヤク之シヤク聖武シヤク
和シヤクるシヤク初シヤクと律シヤクと説シヤク。順シヤク法シヤク
院シヤク建シヤク曆シヤク元シヤク年シヤク後シヤク乃シヤク淨シヤク土シヤク宋シヤクの
ゆシヤクく。泉シヤク涌シヤク寺シヤクと云ふは、律シヤクと云ふ

奥に泉涌る今...
 と友位は不物...
 するふちれい...
 小舎の泉涌る...
 山状の積る...
 りのり...
 殿以下...
 活物日...
 へ不入...

右も院の下の...
 よし也

一 石室の社僧...
 上ノ坊 威徳院 西坊 正持院 長春坊

福来院 下ノ坊 教學院 尾崎坊 五

坊共以...
 銀河...
 苑...
 人れ位...
 一書寫山...
 一老と...

苑...
 人れ位...
 一書寫山...
 一老と...

一書寫山...
 一老と...

一老と...

分。行カキのるカキの字カキの八分。草カキれカキの五
 寸二分。是書カキれカキ家カキはカキはカキ。また家
 の又カキ法カキも有カキり
 一カキ規カキかカキくカキくカキ。とカキすカキりカキてもカキ抹カキ
 せカキるカキ。六カキ鳴カキ階カキ低カキくカキ。規カキの面カキ
 とカキくカキべカキ。一カキ年カキ行カキらカキくカキ。量カキは
 おカキろカキ。とカキはカキ又カキとカキくカキべカキり
 一カキ巻カキとカキすカキらカキくカキ。後カキ。規カキの干カキらカキ
 とカキすカキれカキ。くカキきカキづカキらカキくカキすカキらカキくカキ。巻カキ
 一カキくカキとカキくカキのカキなり
 書カキれカキ口カキ訣カキ下

食茶書之三禮人生日
 用不可須臾離者也然知
 其要者蓋妙矣九幸子受
 之撮其綱領著三禮口訣
 三編余切需之不綴幸得
 許可烏因壽梓以傳益
 窮云
 元祿己卯秋七月

茨城方道謹識



文化十二年 求板

勝真喜六郎藏版

堀川通高辻上町

植村藤右衛門

六角鉄屋町東入町

皇都

小川多左衛門

寺町錦小路上町

上田半三郎

書肆

三条寺町西天町

山中善兵衛

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

